

活動データベース

原子力国際協力センター (JICC) 永野彰

○活動（ローカル）データベース作成の経緯；

- 分析型データベースへのニーズ
 - 各活動の見える化を図る
 - 国内各機関の活動の不足部分、重複部分等を明らかにする
- 分科会における様々なフォーマットの出力への要求
 - 分析型(マトリックス型) データベース (対象国別、対象者別、分野別)
 - 分野別、実施機関別データベース等

○活動データベース作成方針；

- 以下の理由により、市販の汎用ソフトを使用
 - 各部会メンバーが利用可能、費用が少ない、作成时间短、変更が容易
- 将来的にはネットワーク全体のデータベースへの統合を目指す
- 出力結果はオンラインで各分科会メンバーが閲覧可能とする
- できるだけいろいろなフォーマットへボタン一つで出力できることを目指す（結果として一部手入力による操作が必要）
- 原則実施箇所をベースに（出資箇所ではなく）記載

○データベース出力に基づく現在実施されている活動に対する分析結果；

- ベトナムに対する教育を例に議論
 - 基礎工学(機械、電気・制御、水化学等) が空白になっている
 - ⇒ 利用可能な留学生支援制度を取りまとめ、相手国に知らせることが必要
 - 原子力発電実務(計画、設計、建設等) の部分が抜けている
 - ⇒ 空白部分を埋める作業を実施
 - 実質的な研修人数がわかると良い、受講者のフォローアップが必要
 - ⇒ 研修参加者のデータベースが望まれる

○今後の課題；

- 各マトリクス内容の明確化・詳細化（具体的内容（項目、テキスト、講師等））
- 新規導入国の要求内容に対して現在提供している内容の到達度評価
- 今後の計画の時系列化（具体的ロードマップとの結びつけ等）
- 各国の研修参加者のデータベース
- データの充実
- 英語化と各国への発信
- 原子力人材育成ネットワーク全体のデータベースとの統合
- 定期的なデータベースのメンテナンスルールの作成と徹底

